

A. コレツリ作曲
「ヴァイオリンとヴィオローネもしくは
チェンバロのためのソナタ」作品5

Sonate a Violino e Violone o Cimbalo Op 5 (Roma, 1700)

全曲演奏会（前編）

演奏曲目

il programma

A. コレツリ

ソナタ作品5より
第1, 3, 5, 7, 9, 11番

*

B. パスクイーニ

スコットランド人のための
トッカータハ短調

*

F. アマデーイ

チェロと通奏低音のための
ソナタ

出演

i suonatori

鷺見 明香

Violino Barocco

懸田 貴嗣

Violoncello Barocco

平井 み帆

Cimbalo



Arcangelo Corelli
(1653-1713)

2025 **8/17** (日)

昼の部 13:30 開演 13:00 開場

夜の部 17:00 開演 16:30 開場

今井館聖書講堂

東京都文京区本駒込6-11-15

JR駒込駅南口 徒歩11分

南北線駒込駅2番 徒歩8分

都営三田線千石駅A4 徒歩5分

全席自由・限定60席

前売 一般 4,500円 学生 2,500円

当日 一般 5,000円 学生 3,000円

ペア券（前売限定） 8,000円

チケットお取り扱い：東京古典楽器センター 03-3952-5515

TIGET <https://tiget.net/events/362693>

主催・お問合せ：ミューズコンサート企画

後援：日本イタリア古楽協会

0422-44-5306 (Tel/Fax) muse_cp@mbr.nifty.com

TIGET



「全ての道はローマに通ず」とは古くからのことわざですが、18世紀以降ヨーロッパ各国で発展したヴァイオリン音楽の源流を辿ると、必ずと言ってよいほど、そこにコレッリの存在を見出すことができます。例えば師弟関係からなるヴァイオリン楽派の原点というだけでなく、ソナタや協奏曲の作曲技法や演奏様式においても、18世紀以後、古典派～ロマン派の作品の背後にまで非常に重要で確信的な存在感を放っています。

弦楽奏者の宝庫であったボローニャでヴァイオリンの技術を磨き、ローマで寛大なパトロンの庇護のもと、作曲技法にも力を入れ、優秀な同僚と多くの弟子に慕われ活躍したコレッリ。彼の唯一のヴァイオリン独奏作品であるソナタ作品5はその魅力が1音1音に凝縮され、端正に調えられた珠玉の名作です。

この作品を修士論文課題に選んでから約15年、様々な側面から研究し、幾度となく演奏する中で、素晴らしいバランス感覚で書かれ、ヴァイオリンの持つ純粋な歌心と語り口を自然と引き出すこの作品を演奏できる幸せを感じてきました。

そしてこの度、満を持して、イタリア音楽に造詣の深い共演者お二人の心強いサポートのもと、これらの作品を是非まとめて皆様にお届けしたいと思い、全曲演奏会を企画しました。今回は奇数番号編です。

平井さん、懸田さんの演奏するローマの同時代人のチェンバロ、チェロそれぞれの独奏作品も必聴です。

鷺見明香



鷺見 明香（バロック・ヴァイオリン） 東京藝術大学音楽学部古楽科卒業、及び同大学院修士課程古楽専攻修了。アムステルダム音楽院にてルーシー・ファン・ダール、ソフィー・ジェントの各氏に師事、マスターディプロマを取得。2013年国際H.I.F.ビーバーコンクールにて第二位を受賞、ウィーン・コンツェルトハウスでデビュー・リサイタルを行う。在学中よりユトレヒト、ブルージュ、ゲッティンゲン、アンブロンネなど欧州各地の古楽祭に参加。イベリア音楽をレパートリーとするSeconda PraticaのメンバーとしてCD「Nova Europa」をリリース。2018年には野村財団、朝日新聞文化財団の助成を受け日本招聘公演を成功させる。現在は英国に活動拠点を移し、ガブリエリ・コンソート&プレイヤーズ、イングリッシュ・コンサートなどロンドンの名門古楽団体の録音、ツアーに参加、ニューヨーク・カーネギー、ロンドン・ロイヤル・アルバートホールなどで演奏。英国各地の古楽団体でコンサートマスターとして活躍する傍ら、ヨーク大学、マンチェスター大学で後進の指導にも力を入れている。「17世紀後期ボローニャ楽派からみるコレッリ作品5」を研究課題とし、レクチャーやマスタークラスを随時開催している。



懸田 貴嗣（バロック・チェロ） 東京芸術大学院音楽研究科修士課程古楽専攻修了後、文化庁在外派遣研修員としてミラノ市立音楽院で学ぶ。2004年伊ボンボルティ国際古楽コンクールで、リクレアツィオン・ダルカディアのメンバーとして第1位と聴衆賞を受賞。バッハ・コレギウム・ジャパン、レ・ボレアードなど国内の主要な古楽アンサンブルに加えて、国外でもリクレアツィオン・ダルカディア、ラ・ヴェネシアーナのメンバーとして、欧州諸国やトルコ、メキシコなどの世界各地の音楽祭に招かれている。これまで通奏低音奏者として、エマ・カークビー、ミカラ・ペトリ、ロベルタ・マメリ、エンリコ・オノフリなど多くの著名なソリストと共演している。CD「ランゼッティ／チェロ・ソナタ集」で2012年度第67回文化庁芸術祭優秀賞を受賞。横浜シンフォニエッタ・シーズンメンバーはじめ、モダン楽器の分野でも活躍している。アンサンブル・パルテノペ主宰。カルテット・オチェアノとしても「ギロヴェッツ／弦楽四重奏曲作品42」をリリース。国際古楽コンクール山梨、下田国際音楽コンクール審査員を歴任。昨秋リリースの「コスタンツィ／チェロ・ソナタ集」は朝日新聞等メディアでも話題となった。



平井 み帆（チェンバロ） 桐朋学園大学ピアノ科卒業。同大学研究科、デン・ハーグ王立音楽院（チェンバロ専攻）修了。有田千代子、ジャック・オッホの各氏に師事。北とびあ国際音楽祭をはじめ、主要な音楽祭に出演する他、各地で活発な演奏活動を行っている。日本・スペイン交流事業としてアランフェスにてD.スカラルラッティを中心とするプログラムのリサイタルを行った。CDに「イタリアへの夢Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」（全てレコード芸術誌特選盤）、「ブクステフデ：ヴァイオリン、ヴィオラ・ダ・ガンバ、チェンバロのためのソナタ全集」（文化庁芸術祭レコード部門優秀賞）等がある。現在、愛知県立芸術大学非常勤講師、富山古楽協会チェンバロ講師を務める他、兵庫、東京での「通奏低音講座」「バロック舞曲講座」、オンラインでの「通奏低音&音楽理論講座」等、バロック音楽とチェンバロの魅力を伝えるマスタークラスを行っている。2024年、ソロCD「チェンバロの旅～イタリア・バロック音楽150年の軌跡」（音楽現代特選盤、朝日新聞推薦盤、山野楽器必聴傾聴盤、STEREO誌優秀録音盤）をリリース。



ソナタ作品5初版表紙の版画



Google Map



撮影：浅川敏氏